

立命館大学文学部「キャンパスアジア日本研究Ⅱ」 (韓国留学生 2 年生・中国留学生 3 年生) 授業実 践報告

石原, 和
立命館大学文学部 : 授業担当講師

<https://hdl.handle.net/2324/4798344>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.9-9, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、日本、中国、韓国の学生が3カ国のキャンパスを移動しながら学ぶ国際教育プログラムの中で、日本の学年で2回生にあたる中国、韓国の学生を対象としたものである。日中韓の関西(京都、大阪、奈良)の観光ガイドブックの比較によって観光情報の異同を把握させた上で、東アジアとの関連に注目した関西の観光地図を作成させることで、国による視線の違いを踏まえつつ、日本の伝統文化と現代文化の理解を深めることを目的としていた。

当初の予定では、第1～3回にかけて日本文化や関西の歴史に関する導入を行い、第4回以降、適宜実地調査を行いつつ、学生の調べ学習と討論を通して観光地図を作成し、第15回に成果発表会を行う計画だった。導入回では、当日にレジュメを配布し、授業中にはPPTでの資料提示を予定していた。また、討論回では、毎回課題を事前に提示した。学生は、準備した内容に基づきグループ討論を行い、その成果を全体に報告することとしていた。

評価については、毎回のアウトプット(討論回では、グループでの討論要旨)と、最終成果である観光地図を評価対象とする予定だった。

しかし、年度開始前に留学生のビザ発給が停止し、来日が叶わなくなったため、キャンパスアジアプログラムの全体方針としてZoomを使い、自国に滞在する学生に向けてオンライン授業を行うこととなった。その際に、図書館の利用制限や日本の書物の入手の難しさを念頭に、観光ガイドブックからweb上で得られる観光情報へと分析対象を変更した。また、観光地図に代えて、webページ作成サービスWixを利用した関西と東アジアとのつながりを紹介する観光webの作成へと課題を変更した。なお、大学から提供されたonenoteという選択肢もあったが、同期速度が遅く複数の学生による同時作業の媒体として使いにくかった。

授業はリアルタイムで行った。13時からの授業であったが、中国との1時間の時差(中国では昼食の時間に相当)を考慮し、開始時刻を30分遅くした。PDF形式のレジュメ、Word形式のワークシートを授業の前日

までに、manabaにアップロードし、手元において受講することを求めた。討論回では、Zoomのブレイクアウトセッション機能を使い、事前に提示した課題作業を前提として、グループ討論およびwebページ作成作業を行った。その際、各グループに順番に講師も参加し、進行を助け、状況確認を行った。webページの作成にあたっては中間報告会を設け、内容の相互研鑽の機会を作った。

2. 今後の課題・可能性、受講生の反応等

今回の授業では、対面の場合と違い、同時に複数のグループの進行状況を確認しにくく、助けが必要なグループの見極めが困難であった。また、グループ外の学生同士の情報交換の機会が少なく、グループごとに討論の内容や最終成果の質に大きな偏りが生じたことに課題があった。当初の関西と東アジアの関係の紹介という当初の目的から反れて、現代的な「楽しい」観光のwebページとなってしまったグループもあり、また、出典不明の写真、情報も多かった。フォローする機会の少ないオンラインでの留学生教育の難しさを感じた。

その一方で、webページ作成という形で学習の成果を発表することには可能性を感じた。オンラインの共同作業の媒体としてというだけでなく、インターネットネイティブ世代の学生にとって身近な媒体であることもあって、積極的な態度が見られた。また、課題の設定や読者の想定、既存のwebページとの違いの明確化、情報の構成、内容の吟味など人文学の基本にも通じる考え方や方法を実践しながら身につけていくのに有効な媒体だと感じた。対面授業再開後にも活用していく価値はあると考える。